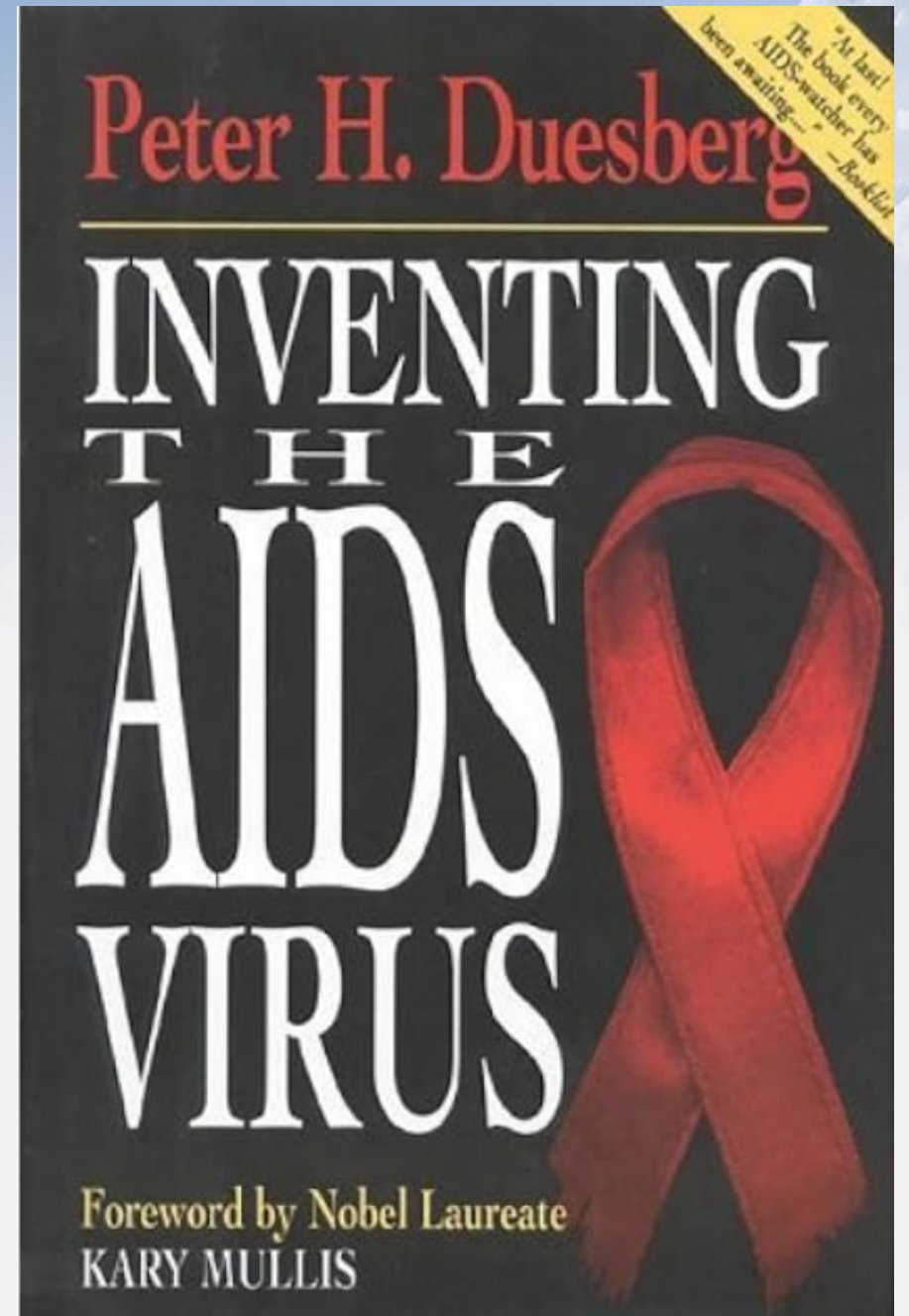


番外: スモン病

ピーター・デュースバーグ著
「エイズウイルスの発明」(未訳)より



スモン病とは？

- 日本で1955～1970年の15年間だけ存在した「感染症」
- 1970年に突然に、完全に消滅した。その理由は？

1970年に整腸剤が原因と発覚

- この整腸剤に含まれる「キノホルム～クリオキノール」が原因
- 感染症ではなく、ただの薬害
- 何度か「ウイルスを発見」と報道
皆感染症と思っていた



ウイルスが原因という予断

- 何度かキノホルムが原因ではという示唆はあった
- これを無視してウイルスばかりを追いかけていた

- 「医師と科学者はウイルスを信じたかったのです。彼らがクリオキノールを処方したからです。この薬の主な副作用としては、便秘と腹痛です。そして、この薬が痛みを引き起こすものですから、医師はさらにこの薬を処方したのです」

「スモン」の症状を抑えるため
さらにこの薬を投与
病状はさらに悪化していった

- 1970年において～日本の厚生省は、もはや待たないことを決め、即座にクリオキノールについての情報を報道にリリースした。8月初旬には大衆に知らされ、この月のスモン件数は50以下になった。医師たちがクリオキノールの患者への処方をやめたからである。

スモン病の影響(ウェブ記事)

- 井上助教授がスモン患者の便から新型コロナウイルスを分離し、分離したウイルスをハムスターに接種してスモン様の変化を起こすことに成功したと報じた
- スモンは治療法のない難病で、しかも他人に感染させることが絶望へと導いた。スモンで亡くなった患者の葬儀には手伝いに行く者がいなくなり、スモンを抱えた家族の縁談は破談となり、患者が買い物に行っても店は現金を受け取ろうとしなかった。

- 患者の家には誰も寄りつかず、医療機関も患者を避けるようになった。スモン患者は病気の苦難に加え、周囲の差別、さらには一家離散に苦しむことになった。患者の苦悩は極限に達し、絶望の中で500人以上の患者が自殺している。
- 根拠のない医学者のコメントにより、一般人までがウイルス感染説を信じ、スモン患者への偏見を強めることになった。

スモン病の影響(ウェブ記事)

- 1970年初めにスモンの原因はウイルスであると言う事が突然新聞で断定的に報道されました。このことは全国のスモン患者に深刻な影響を与えました。ウイルスだといわれたことで村八分にされた人、家族にもこわがられて一室に閉じこめられた人もいました。病院でもかくりされたりして、その苦しみから自殺する人もたくさん出ました。

- スモンウイルス説がもし本当だったなら隔離もしかたがなかったでしょう、けれども実際にはこれを主張した唯一人の学者のみがウイルスの分離ができたと発表しただけで、だれが追試しても発見出来ない間違った結論でした。で、このウイルス説はその後学会で完全に虚構であるということが証明され、ピリオドを打たれました。